

**土木学会・地盤工学会
平成26年広島豪雨災害合同緊急調査団**

中間報告会

2014年8月27日

**緊急調査団
地盤工学チーム**



可部東6丁目

可部東6丁目



- ① 斜面を約300m上ったところで源頭部を確認した。表層が崩壊して約30m下の溪流に落下し、溪流に集められた水とともに土石流になったと推測される。
直径約5cmの穴が複数個あった。（花崗岩，真砂）

可部東6丁目

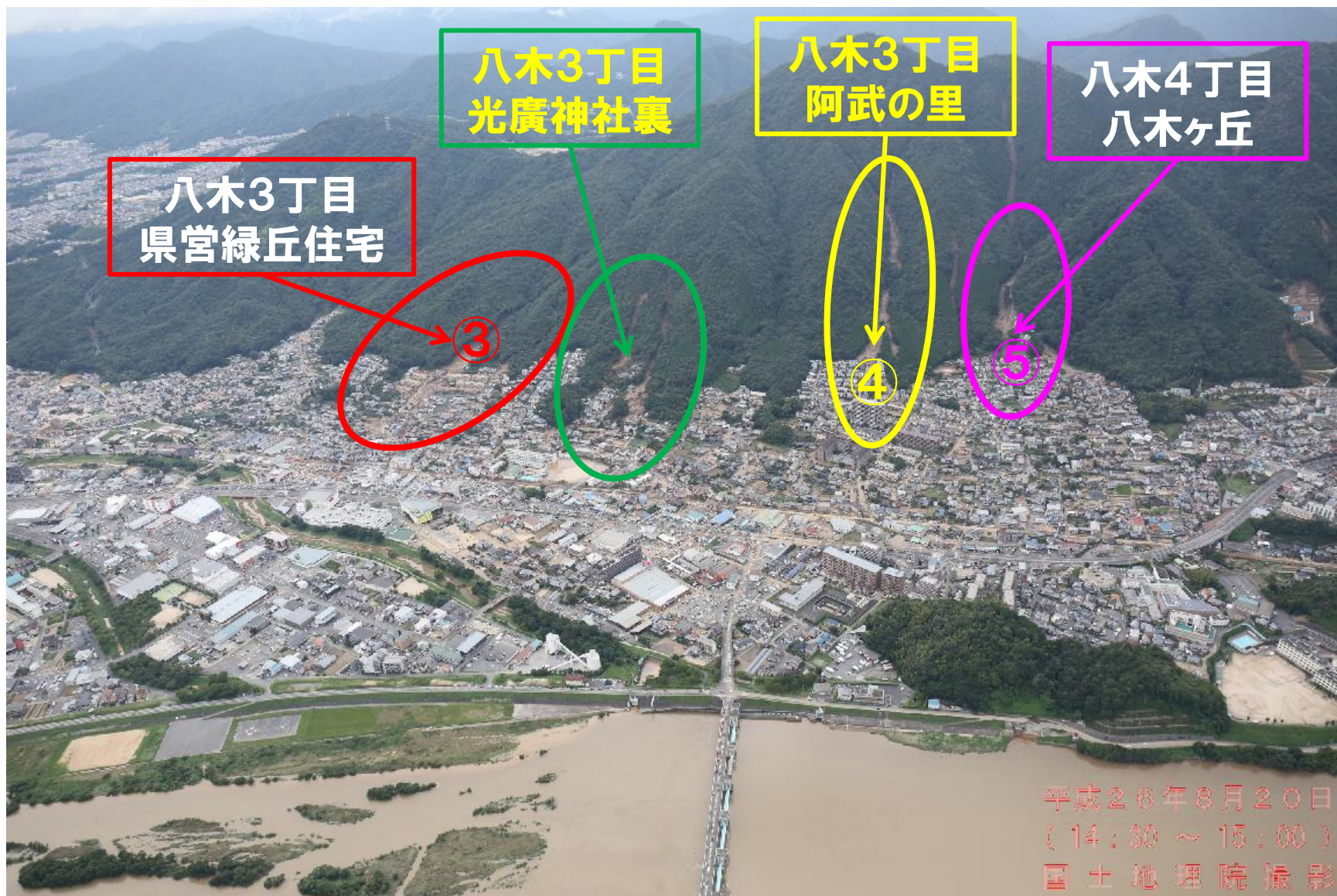


②山からの土石流が流れ込んできた箇所。新築中の家が飛ばされている。道路沿いからの流れ込みもあり、被害甚大。
(花崗岩, 真砂)

可部東6丁目



②パットゴルフ場方面から道路沿いに土石流が流下
(花崗岩, 真砂)



八木地区 最も被害甚大

県営緑丘住宅



可部線

③八木3丁目 県営緑丘住宅。阿武山の標高約350m付近から流下した土石流が下流の住宅地を直撃した。4mを超す巨岩も流下している。

流下距離が長く、可部線の線路まで土砂が到達していた。県営住宅から上の住宅は土石流に流されて消滅しており、被害甚大。(花崗岩, 真砂。粘土化した真砂もみられる。)

阿武の里団地上流

約 1.5m～2m

- ④八木3丁目阿武の里団地。 団地の最上段にあった住宅は完全に押しつぶされ、2名の方がなくなった。流下した土砂は風化した花崗岩だけでなく、粘板岩などの堆積岩などからなる。扇状地の地形を呈しており、過去も土石流が発生箇所であると推測される。土には粘りけがある。

八木ヶ丘団地上流



流下した溪流

一部損壊した治山堰堤



多くの住宅が消滅



⑤八木4丁目八木ヶ丘団地。阿武山の標高約430m付近から流下した土石流が下流の住宅地を直撃し、多くの住宅が消滅した。流下した溪流は幅約50m。上流には治山堰堤があり、袖部が一部損壊していた。阿武の里団地と同様に、まさ土のみならず、チャートなどの堆積岩と思われる岩石が多かった。



治山堰堤



⑥緑井7丁目。土石流が住宅を直撃し、住宅を全壊している。住宅地から約100 m上流に治山堰堤があり、土石流はこの堰堤を乗り越えて流下している。土石流下流の住宅地には典型的な真砂が厚く堆積していた。

災害の特徴

1. 3時間で200～250mmという集中豪雨によって**土石流危険溪流が一斉に崩壊した。**
- 2 狭い範囲への短時間の集中豪雨による**同時多発的な土石流の発生は、2010年の庄原土砂災害と共通性がある。**
3. 2010年の庄原災害でもそうであったが、**避難勧告・避難指示は間に合わなかった。**
4. 土石流をもたらしたのは、現在のところまさ土を中心とする斜面の表層崩壊と考えられるが、**今後さらに溪流の調査が必要**である。

今後調査すること

1. 雨量と土砂災害発生に関する精査
2. 今回の豪雨における避難勧告・指示の判断過程の検証
3. 今回のような豪雨に対する行政のソフト対策のあり方の検討
4. 100mm/h前後の集中豪雨により短時間に同時多発的に土砂災害が発生するメカニズムに関する調査と課題の整理

緊急調査 中間報告 地盤工学編
おわり